

噴き上がる地獄の炎に観客も大興奮

～鬼火が誘う地獄の谷～

6月1日(月)、登別温泉地獄谷展望台で『地獄の谷の鬼花火』と『鬼火の路、幻想と神秘の谷』のオープニングセレモニーが開催されました。

この催しは、観光客誘致のための長期イベントとして登別観光協会と市が開催しており、今年で4年目を迎え、登別温泉の夏の新たなイベントとして定着しつつあります。

セレモニーでは、観光協会の南副会長が開幕を宣言した後、たいまつを点灯。同時に地獄谷遊歩道から鬼火が点灯し幻想的な路を浮かび上がらせました。その後、勇壮な太鼓とドラの音に合わせ、湯の守り神『湯鬼神』が登場。展望台に設置された舞台上で無病息災を願う力強い舞を披露しました。最後に『湯鬼神』が手筒花火を抱え火柱を上げると訪れた約1,000人の観客から一斉に歓声と拍手が上がりイベントは最高潮を迎えました。

『地獄の谷の鬼花火』は今年から曜日を変更し、8月21日(金)までの毎週木・金曜日20時30分から(天候などにより中止する場合があります)。『鬼火の路、幻想と神秘の谷』は11月30日(月)までの毎日19時30分から22時まで行われます。



『湯のまち』にきれいな花が咲くことを願い

～開湯150年記念
植樹の手入れ～



5月17日(日)、のぼりべつ文化交流館『カント・レラ』で『登別温泉開湯150年記念植樹の手入れ』が行われました。

当日は曇り空のやや肌寒い天気にもかかわらず、地域の住民や登別観光協会、温泉旅館組合などの関係者約100人が、グラウンドに植えられたエゾヤマザクラの苗木2,000本の剪定作業や添え木の縛り直し、雑草の取り除きや追肥作業を行いました。

参加者は、昨年、多くの市民の願いを込めて植樹したこの苗木が、健やかに成長し、いつの日か道道洞爺湖登別線の通称『花のトンネル』を彩ることを願いながら、わが子をかわいがるように約2時間をかけ丁寧に手入れをしていました。

今年度の活動計画を決定

～第6回市民自治推進委員会・全体会議～

6月8日(月)、市民会館中ホールで『第6回市民自治推進委員会・全体会議』が開催されました。

同委員会は、『登別市まちづくり基本条例』に基づく市民組織として平成18年10月に発足。これまで、まちの課題について6つの部会に分かれて勉強会を開き、市に提言をしたり、市がまちづくりについての重要な施策や計画を策定するときに、企画・立案の段階で、意見やアイデアを市に出すなどの活動をしています。

今回の全体会議では、平成20年度の活動報告が行われたほか、平成21年度の活動計画として、市民自治について理解を深めてもらう市民フォーラムの開催や市が行っている事務事業の事業仕分け、景観・緑化条例の素案づくりなどについて取り組むことが決定されました。

